日本の緑化事情 / 屋上緑化で使用する土壌について

緑化には無くてはならないものとして、土壌があります。人工的な緑化ですので天然の土壌と同じと言うことはできません。

天然との最大の違いは「深さ」と「広さ」です。屋上緑化の場合には既存の建造物に設置する為にスペースの制約があります。天然のように毛細管現象を利用するような広さも深さもありませんので、給排水を鑑みた土壌が必要になります。

建造物の上に敷設されることから荷重も与しなければなりませんから、天然の土を持ってきてそのまま使用することは出来ません。

特に屋上緑化では、保水性・通気性・透水性を考慮した天然土壌よりはるかに軽いものが求められます。

また、PH値も考慮しなければならないことから、有機・無機の長所をあつめた人工土が主となっています。大日化成の屋上緑化資材・VUSシリーズでは、水を均一に拡散する軽量培土に人工ゼオライトを配合しました。

人工ゼオライトとは、アロフェンの表面を陽イオン活性化し、高陽イオン交換容量を特徴とします。植物の生育に必要な肥料成分や微量元素を吸着・放出することで性能発揮する優れた性質があり、土壌に加えるとバランスを維持する機能により、土壌のPH、保肥性を向上させ緑化植物の生育安定に寄与します。

VUS500に配合した、人工ゼオライトは天然ゼオライトの20倍（社内試験値）の高い効果により、セダム植物の生育安定性を向上させます。

このように、ある意味草木が繁茂するには過酷な条件で有る屋上緑化でも、生育性安定度を向上させる工夫が凝らされています。

大日製品現場リポート

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

府営住宅受水槽の改修工事でアクアエポシステムを採用頂きました！

今年の1月、某府営住宅の受水槽改修工事で当社の「スカイレジンアクアエポシステム」を採用頂き、工事も無事に完了しました。

今回の現場を受注した施工業者様は当初、他社製品で施工を考えていたのですが、設計監理らしいので入っていた設計事務所の先生が当社の「スカイレジンアクアエポシステム」を薦めてくれて採用になったそうです。

この設計事務所は、別の府営住宅の設計監理で入った際にも「スカイレジンアクアエポシステム」を採用していただいた実績があるなど、この設計事務所は約1年前に改修工事の受水槽の計画